気をつけよう！　感染症

寒く乾燥する冬は、ウイルスが元気になる季節です。冬の感染症は呼吸器に症状が出やすいものが多いのが特徴です。さらに、冬から春先には、ロタウイルスやノロウイルスによる感染性胃腸炎も流行します。十分に注意し、冬を元気に乗り切りましょう。

ＲＳウイルス感染症

原因　ＲＳウイルスの感染によって起こる集団流行しやすい感染症。特に１歳未満の乳児がかかりやすく、気管支炎や肺炎を起こす。

症状　鼻水やせきなどの症状で始まり、呼吸時にヒューヒュー、ゼーゼーといった音が出る。重症化すると危険な状態になることも。

対応　今のところＲＳウイルスに対する根本的な薬はない。早めに受診し、こじらせないようにすることが第一。

クループ症候群

原因　パラインフルエンザウイルスなどに感染し、咽頭に炎症を起こすことで発症する。

症状　発熱やのどの痛みから始まり、犬がほえるような甲高いせきが出る。呼吸が荒くなり、ぜん鳴を伴う。ぜんそくと違って、息を吸うときにヒューヒューという音がするのが特徴。

対応　吸入器で消炎剤などを吸入して治療する。悪化すると入院が必要になることも。家庭では水分を十分に与え、加湿器などで室内の乾燥を防ぐ。

気管支炎

原因　インフルエンザやかぜの炎症が、のどから気管支にまで進んだ状態。

症状　熱が高くなり、たんがからんでゼロゼロという湿ったせきが長く続く。長引くと症状が重くなり、呼吸困難に陥ることも。

対応　水分を十分に与え、室内の乾燥を防ぐ。また、せきはたんを体外に出すためにたいせつな反応なので、むやみに市販のせき止めを使うのは避ける。

肺炎

原因　ウイルスや細菌が肺に入り込み、炎症を起こした状態。インフルエンザやかぜをこじらせてかかることが多い。

症状　かぜの症状のあと、４日以上高い熱が続き、たんが絡んだ湿ったせきをしていたら、肺炎の疑いがある。

対応　レントゲンをとって肺炎かどうかを診断する。抗生物質を服用して治療する。状態によっては入院が必要なことも。

溶連菌感染症

原因　Ａ群溶血性連鎖球菌という細菌が原因となる病気の総称。飛沫で感染する。

症状　高熱が出ることがあり、のどのはれ、おう吐、頭痛などの症状が現れる。首のリンパ節がはれたり、筋肉痛や中耳炎を起こすことも。その後全身に小さな発しんが出たり、舌に白いこけ状のものがつき、3日くらいすると赤くブツブツしてくる（イチゴ舌）。発しんや舌のブツブツが出ず、のどが痛いだけのときもある。

対応　抗生物質で治療する。症状が治まったからといって独断で薬をやめたりしないこと。

感染性胃腸炎

原因　ウイルス性の感染によるもの。冬はノロウイルス、ロタウイルスが代表的。主に経口、飛沫感染だが、ノロウイルスの場合は、食品から感染することも。生後半年～２歳くらいの子が多くかかる。

症状　激しいおう吐の症状が突然現れ、下痢がそれに続き、発熱もある。ロタウイルスに感染の場合は、便が白っぽくなることも。

対応　激しい下痢が続くので、イオン飲料や湯冷ましなどで十分に水分補給をし、脱水症状にならないようにする。症状は２～３日から１週間程度で治まる。

咽頭結膜炎（プール熱）

原因　アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を介して感染することがあるので、「プール熱」と呼ばれる。

症状　39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状が出るのが特徴。

対応　感染したら、症状がなくなってから２日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすように。

ヒトメタニュウモウイルス感染症

原因　ヒトメタニュウモウイルスが原因。気管支炎や肺炎などの呼吸器感染症をひきおこすウイルスの一種。飛沫感染、接触感染。

症状　風症状にとても似ている。多くの場合、咳が１週間程続き、熱が４～５日程度続き、鼻水が流れる。悪化するとゼイゼイ（ヒューヒュー）という呼吸や呼吸困難になることも。RS ウイルス感染症の症状に似ている。

対応　水分をしっかりととり、温かくして、安静に過ごす。熱が４日以上続く場合は、細菌にも感染している可能性がある。熱が長引く時は中耳炎や細菌による肺炎などをおこしていることがあるので、もう一度早めに受診する。